



お元気ですか！
志村 たかよし です

第913号 2018年11月11日

日本共産党中央区議団

中央区 築地 1-1-1
電話 3546-5563
FAX 3546-9570

築地市場移転後、間髪入れずに 都が「官民連携チーム」を発足



東京都資料より

**大手デベロッパー社員、起業家、都職員などのチームで
築地市場跡地を含む臨海地域のビジョン策定へ**

都は築地市場移転を強行し、10月11日に豊洲市場を開場しました。その1週間後の18日、都は築地市場跡地を含む臨海地域の総合的なビジョン（仮称・東京ベイエリアアビジョン）を検討する官民連携による若手検討チームの初会合を開きました。

官民連携チームは、都市計画やまちづくりの専門家、大手デベロッパー社員、起業家などの民間の構成員に加え、都の若手職員らがメンバーとなっています。

【参加デベロッパー】

- ・三井不動産株式会社
- ・三菱地所株式会社
- ・住友不動産株式会社
- ・森ビル株式会社

このビジョンは、2020年東京五輪開催後の「成長戦略」を示すのが目的で、五輪をテコにして、国内外から新しい産業や投資を臨海部に呼び込むことなどが軸に据えられています。

対象エリアは、図のように、築地を含む約5800畝に及ぶ臨海地域の造成地で、地域ごとのイメージとして、築地「新たなブランドの創出・交流拠点」、晴海「環境先進都市のモデルケース」、豊洲「市場の活気と賑わいを活かす」、有明「スポーツとイベントで賑わうまち」、台場「アーバン・ウォーターフロント」、青海「リゾート&イノベーション」などを打ち出そうとしています。

築地再開発で大収容のホテル建設？

都政新報（10/23付）は、「築地再開発では、地元の中央区が3千室程度の大収容のホテル建設案も想定」と報道しています。

移転を容認してきた中央区の市場跡地をめぐる動きに要注意です。

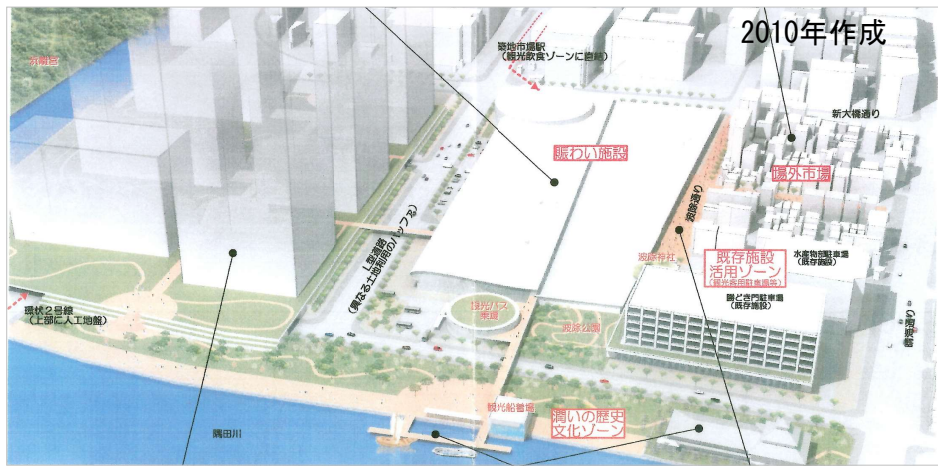
（裏面に続く）

市場跡地 中央区がビジョン作成を委託 東京都が開発案を委託

↓日本設計

場外の会議も日本設計に委託

中央区は2010年に、築地市場跡地を「賑わい施設」として活用するとして、(株)日本設計が作成した絵(左)を発表しました。



同年11月の委員会で、私が、「いつから日本設計と話し合いをはじめたのか」と質問したところ、区は「平成16年(04年)以降、場外地区を一体として今後のあり方を考えていく中で、日本設計に会議を委託した」と答えました。

つまり、03年に、区が移転を前提とした「ビジョン」作成を発表した直後に日本設計と話し合いを持ち、市場跡地と場外市場を含む「ビジョン」の作成業務を日本設計に委託したのです。段取り早い!

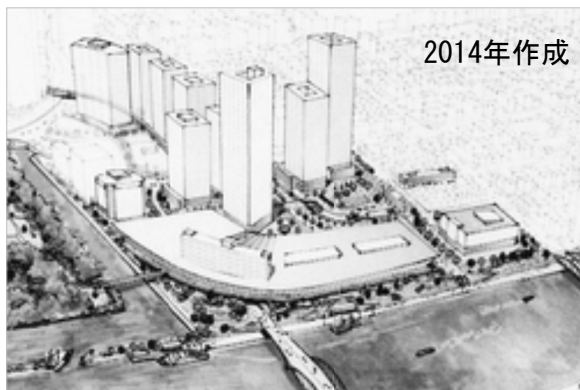
図の右側が「賑わい施設」、左側は「低層の場外やマーケットの容積を移転して高度利用を図る」高度利用エリアを提案しています。

都も築地構想を日本設計に委託

14年、日本設計は都の委託を受け「築地地区まちづくり調査検討

業務委託報告書」を提出しました。三つの開発案が提案され、そのうち「観光・交流」を重視したA案(左絵)は、複合国際交流拠点として海外VIPが利用するラグジュアリーホテル、超高層ホテル、国際会議場(収容5000人以上)、劇場・ホール(3000席以上)、大規模展示施設(2万㎡以上)、オフィスビルなどを配置。事業費は4194億円(用地費を除く)と試算しています。

12年3月には、森ビルが、都の委託を受けて作成した「築地市場移転後の用地開発に係る調査委託報告書」を提出しています。



日本設計が都に提出した、築地市場移転後の再開発調査検討報告書に掲載した完成予想イメージ(A案)

ここには、築地市場跡地をオフィス中心型、複合型、住宅中心型に再開発する9案を提案しています。

JAPICの提言が具体化

84年に、築地市場用地を「都心一等地として、今後めつたに発生しない大規模用地」と狙っていたJAPIC(日本プロジェクト産業協議会)は、03年に現副区長の吉田不曇氏と意見交換しました。

その直後に、区は移転前提のビジョンを作り、都も開発構想を検討し始めわけですが、その委託先は、どちらも日本設計です。

日本設計は、大手ゼネコンなどとともにJAPICに加盟しています。

JAPICが、以前から検討していた地域は、一面でお知らせした「東京ベイエリアビジョン(仮称)」の対象地域と重なります。

移転反対の声を踏みにじり、築地市場の豊洲移転を進めてきた都と中央区の背後に「うごめく者」たちの正体を明らかにし、好き勝手にさせないよう追及を強めます。